

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 12 日現在

機関番号：82674

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22792254

研究課題名（和文）地域専門機関とインフォーマル組織との組織間ネットワーク力尺度の開発

研究課題名（英文）Scale development of interorganizational network between multidisciplinary agencies and community-based organizations

研究代表者

村山 洋史（MURAYAMA HIROSHI）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）

・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員

研究者番号：00565137

研究成果の概要（和文）：本研究では、地域の専門機関とインフォーマル組織との組織間ネットワーク力を測定する尺度を開発することを目的とした。本研究では、地域専門機関として、地域包括支援センターに焦点を当てた。概念の明確化、アイテムプールの作成、項目の選定、尺度の妥当性の検証の手順を踏み、インフォーマル組織（「民生委員」、「町会・自治会」、「ミニデイ・サロン」、「高齢者クラブ（老人クラブ）」）との関わりの段階毎に、それぞれ 17～23 項目が含まれた尺度が完成した。今後、尺度の実用可能性や妥当性の検討を十分に行っていく必要があるものの、実践活動上の意義が高い尺度が作成された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a scale for interorganizational network building between multidisciplinary agencies and community-based organizations (CBOs). In this study, we focused on a community comprehensive support center (CCSC) as a multidisciplinary agency. After clarifying the concept of interorganizational network, developing item pool, selecting items from the pool, and examining the validity, the scale for interorganizational network building between CCSC and four different kinds of CBOs was developed. The scale for network building between CCSC and CBOs is significant and practically feasible even though its applicability and validity need to be further confirmed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：組織間ネットワーク、尺度開発、地域専門機関、地域インフォーマル組織、地域包括支援センター、地域づくり

1. 研究開始当初の背景

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続して
いけるための体制整備には、地域包括支援セ

ンターのような専門機関や、民生委員、町内
会、ボランティア組織のようなインフォーマ
ルな地域住民組織（以下、インフォーマル組

織)が活性化することが重要であるが、これらが互いにネットワークを組み、支え補い合うこともヘルスプロモーションや Community Building を実践していく上で重要である。しかし、そのどうなればネットワークを構築できたと言えるのか、すなわち評価方法論は未確立である。

2. 研究の目的

本研究では、地域の専門機関とインフォーマル組織との組織間ネットワーク力を測定する尺度を開発することを目的とし、組織間ネットワークの評価方法論の確立を目指す。

3. 研究の方法

<平成22年度>

(1) 組織間ネットワークに関する概念の明確化、および妥当性検討のための面接調査

先駆的にインフォーマル組織との関係構築を行っている東京都 S 区の地域包括支援センター職員 12 名に対して個別インタビュー調査を行った。インタビュー項目は、インフォーマル組織とのこれまでの関わりの経緯についてであった。

(2) 尺度開発のためのアイテムプールの作成

明確化した概念を基に、地域の専門機関とインフォーマル組織との組織間ネットワーク力を測定する尺度項目のアイテムプールを作成した。アイテムプールの作成には、地域包括支援センター職員に対するフォーカスグループインタビュー (FGI) を行い、「民生委員」、「町会・自治会」、「ミニデイ・サロン」、「高齢者クラブ (老人クラブ)」の 4 つの地域インフォーマル組織と地域包括支援センターとのネットワーク構築に必要な考えや意識、具体的な行動について尋ねた。

<平成23年度>

(3) アイテムプールの選定、および尺度の信頼性、妥当性の検討

東京都 S 区の地域包括支援センター職員や行政保健師の協力を得て、作成したアイテムプールからの項目選定を行った。また、実際に S 区の地域包括支援センター全数 (27

ヶ所) に 2 回にわたり配布し、実際に使用してもらい、その回答分布をみることで尺度項目の妥当性を確認した。さらに、尺度の使用方法についても意見を求めた。

4. 研究成果

(1) 組織間ネットワークに関する概念

地域専門機関である地域包括支援センターとインフォーマル組織との組織間ネットワークには、3 つの段階性があることが伺われた。最初に、まずは顔見知りになり、お互いの存在を認識し合う段階があった。この段階では、お互いの機能や役割を周知してもらうよりも、関係のきっかけを作ることが重要であった。次にお互いの役割について理解する段階であった。この段階の多くは、ケースについての相談や事業協力を依頼することで築かれていた。最後に、お互いに役目を持ち、協働する段階であった。この段階の特徴として、インフォーマル組織の機能や役割によって協働の程度が異なることであった。中でも、民生委員は地域包括支援センターとの協働可能性が高い傾向が見られた。

(2) 尺度開発のためのアイテムプールの作成

FGI の結果、地域包括支援センターとのネットワーク構築の相手である 4 つの地域インフォーマル組織である「民生委員」、「町会・自治会」、「ミニデイ・サロン」、「高齢者クラブ (老人クラブ)」について、それぞれに 3 つの段階性 (「顔見知りになり、お互いの存在を認識し合う段階」、「お互いの役割について理解する段階」、「お互いに役目を持ち、協働する段階」) に基づき分類を行った。

(3) アイテムプールの選定、および尺度の信頼性、妥当性の検討

アイテムプール項目の選定作業、および 2 回にわたり地域包括支援センターに実際に使用してもらう過程を経て、各インフォーマル組織について各段階に、それぞれ 17~23 項目が含まれた尺度が完成した (図 1 に、民生委員との組織間ネットワーク力を測定する尺度項目を例に示す)。

各項目に「1=できていない」~「5=できて

- the attitude toward care? multilevel analysis in Japan. *Geriatrics & Gerontology International* (査読有) 2011; 11(2): 166-173. doi: 10.1111/j.1447-0594.2010.00658.x.
- ⑧ Murayama H, Taguchi A, & Murashima S. Exploring strategies to encourage community health outreach by health promotion volunteers in Japan. *Journal of Ambulatory Care Management* (査読有) 2011; 34(3): 274-285. doi: 10.1097/JAC.0b013e318223f427
- ⑨ Taguchi A, Murayama H, Ryu S, Nagata S, & Murashima S. Characterizing active acquirers and communicators of health information for health promotion intervention in the community. *Japanese Journal of Health and Human Ecology* (査読有) 2011; 77(4): 150-161.
- ⑩ Murayama H, Shibui Y, Fukuda Y, & Murashima S. A new crisis in Japan—social isolation in old age. *Journal of the American Geriatrics Society* (査読有) 2011; 59(11): 2160-2162. doi: 10.1111/j.1532-5415.2011.03640.x
- ⑪ 村山洋史, 菅原育子, 吉江悟, 涌井智子, 荒見玲子. 一般住民における地域社会への態度尺度の再検討と健康指標との関連. *日本公衆衛生雑誌*(査読有) 2011; 58(5): 350-360.
- ⑫ 村山洋史, 渋井優, 河島貴子, 虎谷彰子, 可野倫子, 立花鈴子, 澁田景子, 福田吉治, 村嶋幸代. 都市部高齢者の閉じこもりと生活空間要因の関連. *日本公衆衛生雑誌*(査読有) 2011; 58(10): 851-866.
- ⑬ 渋井優, 村山洋史, 河島貴子, 虎谷彰子, 可野倫子, 立花鈴子, 澁田景子, 福田吉治, 村嶋幸代. 都市部高齢者における閉じこもり予備軍の類型化: 介護予防対策の具体化に向けて. *日本公衆衛生雑誌*(査読有) 2011; 58(11): 935-947.
- ⑭ 村山洋史. 高齢社会と買い物難民: 高齢者の閉じこもり研究からの示唆. *都市計画*(査読有) 2011; 60(6): 12-15.
- ⑮ Murayama H, Yoshie S, Sugawara I, Wakui T, & Arami R. Contextual effect of neighborhood environment on homebound elderly in a Japanese community. *Archives of Gerontology and Geriatrics* (査読有) 2012; 54(1): 67-71. doi.org/10.1016/j.archger.2011.03.016
- ⑯ Murayama H, Taguchi A, & Murashima S. Does similarity in educational level between health promotion volunteers and local residents affect activity involvement of the volunteers? *Public Health Nursing* (査読有) 2012; 29(1): 36-43. doi: 10.1111/j.1525-1446.2011.00965.x
- ⑰ Murayama H, Fujiwara Y, & Kawachi I. Social capital and health: a review of prospective multi-level studies. *Journal of Epidemiology* (査読有) 2012; 22(3): 179-187. doi:10.2188/jea.JE20110128
- ⑱ Murayama H, Taguchi A, Ryu S, Nagata S, & Murashima S. Institutional trust in the national social security and municipal healthcare systems for the elderly and anxiety with respect to receiving elderly care in Japan: a cross-sectional study. *Health Promotion International* (査読有) (in press) doi: 10.1093/heapro/dar052
- ⑲ Murayama H, Nishinaga M, Sugawara I, Goto J, Hirose Y, Senuma T, Shinkai S, Akiyama H, Tsuji T, & Kamata M. Interactions of household composition and required care level with functional and cognitive status among disabled Japanese elderly living in a suburban apartment complex. *Geriatrics & Gerontology International* (査読有) (in press) doi: 10.1111/j.1447-0594.2011.00785.x
- [学会発表] (計7件)
- ① 村山洋史. 地域包括支援センター職員のバーンアウト—インフォーマル組織とのネットワーク構築業務との関連—. 第13回日本地域看護学会, 2010年7月10日～11日(札幌).
- ② 村山洋史, 渋井優, 福田吉治, 立花鈴子, 河島貴子, 虎谷彰子, 可野倫子, 澁田景子, 村嶋幸代. 高齢者の生活空間要因は閉じこもりと関連するか?: 都市部での

検討. 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 2010 年 10 月 27 日～29 日 (東京) .

- ③ Murayama H, Sugawara I, Yoshie S, Wakui T & Arami R. Neighborhood environment and sense of community: Multilevel analysis in Japan. The 138th Annual Meeting & Exposition of the American Public Health Association, Nov.6-10 2010 (Philadelphia, PA).
- ④ 村山洋史, 西永正典, 秋山弘子: 高齢化が進行した都市近郊部集合住宅における在宅高齢者の身体・認知機能と世帯構成の関連. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 2011 年 6 月 15 日～17 日 (東京)
- ⑤ 村山洋史, 西真理子, 金美芝, 清水由美子, 成田美紀, 吉田裕人, 小川貴志子, 藤原佳典, 新開省二: 高齢期の虚弱予防に向けた複合的介入プログラムの作成と評価デザイン. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011 年 10 月 19 日～21 日 (秋田)
- ⑥ Murayama H, Taguchi A, Murashima S : How can the Community Health Outreach by Health Promotion Volunteers be encouraged? A Study in Japan. The 139th Annual Meeting & Exposition of the American Public Health Association, 2011. 10. 29-11. 2 (Washington DC)
- ⑦ Murayama H, Nishi M, Kim MJ, Shimizu Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Shinkai S : Prevalent Frailty and Socioeconomic Status among the Japanese Elderly. The Gerontological Society of America 64th Annual Scientific Meeting, 2011. 11. 18-22 (Boston, MA)

〔図書〕 (計 1 件)

- ① 村山洋史 (分担執筆). 「ソーシャルキャピタル」, 「疫学」, 「医療圏」, 「環境汚染」, 「人口構成」, 「ネットワーク」, 「連携」. 看護学事典 (見藤隆子, 小玉香津子, 菱沼典子, 編). 東京, 日本看護協会出版会, 2011.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村山 洋史 (MURAYAMA HIROSHI)
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター (東京都健康長寿医療センター研究所) ・東京都健康長寿医療センター研究所 ・研究員
研究者番号 : 00565137

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし